

ロコ・ソラーレ

2022.4.5

ロコ・ソラーレと言えば、カーリングである。記憶に新しい第24回冬季オリンピック北京2022である。何故に今頃になってロコ・ソラーレなのか。それは、中学校の部活動のことを取り上げたいからである。

私はというと、平昌オリンピックのときよりは、カーリングのことがわかってはきた気である。だが、まだまだわからないことが多い素人の一人である。日本代表であるロコ・ソラーレの試合をテレビで観戦した。カーリングを見ているというよりは、4人のメンバー、人物を見ているといった方が正しいかもしれない。

平昌のときには、「もぐもぐタイム」と「そだねー」が話題となり、銅メダルを獲得した。今回はというと、準決勝進出をあきらめていたところに、一転して進出できるとの吉報が入った。リーグ戦ならではの展開である。カーリングは全チーム総当たりによるリーグ戦を行う。組合せによる妙は起きない。その分、意外なドラマが待っていることがある。

日本代表選手の4人を見ていると、お互いに何を話しているのかがテレビ越しに聞こえてくる。誰もネガティブなことマイナスなことを言わない。常に前向きである。明るい。試合中、互いにずっと声をかけ合っている。コミュニケーションをとり続けている。

多くの競技では、思い通りにいかずに、相手にリードを広げられたりすると、それまでの元気さがなくなったり、声をかけ合うこともなくなったりするものである。それが、カーリング日本女子代表にはない。なおかつ、決してあきらめることもない。その姿勢が第10エンドの大逆転につながった試合もあった。

ロコ・ソラーレを見ていて思ったのである。中学生の部活動も、こうだといいなあと。試合中に常に声を出し、互いに励まし合い、最後まであきらめない。ぜひ、4人の姿勢から学んでほしいと考えたのである。

実際に行うのは簡単ではない。やろうとはしても、なかなかできるものではない。ミスをした選手を責めたり、負けてきて雰囲気かわるくなるチームもある。だが、中学生でも、見ていて気持ちがいいチームもある。まとまりがある。こういうチームには、劣勢をはね返す力が備わる。ロコ・ソラーレも、何度も崖っぷちに立たされている。

何といってもロコ・ソラーレの笑顔がすばらしい。4人ともである。人を幸せにする笑顔である。カーリングを見ているというよりは、4人の素敵なお顔を見ていたのかもしれない。中学生にも、ああいう笑顔で試合をしてほしいと思う。

どの試合でも重要な局面での一投を任される藤澤五月選手は、銀メダルを胸に言っていた。「これを機に、カーリングを始める人が増えてほしい」と。その願いは叶うであろう。ソラーレとは、イタリア語で太陽を意味する。まさしく4人は太陽だった。